

「球磨の流れ」

著者	上野，裕久
雑誌名	龍南
巻	2 4 6
ページ	3 2 - 3 2
発行年	1940-03-01
URL	http://hdl.handle.net/2298/8386

「球磨の流れ」

文三甲一

上

野

裕

久

球磨川の水は青みて相良城の秋の姿を明るく映せり

矢のごとく日は過ぎゆきて大學の入試の揭示多くなりくる

そびえ立つ高千穂の峯とりまける雲をい裂きて夕陽射しをり

何萬の歳をけみしてかくは深き石灰岩の浸蝕の跡（檜倒し）